

## 正誤表

本文中に以下の誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

頁	誤	正
58頁図1.5.4-2(b) Y軸目盛り	6000	600
	4000	400
	2000	200
129頁 付表4.1-1 右から2列目2行目 構造化された 意見交換の列	あり	適用なし
164頁 表(b) イベント数の変化 対照群のイベント数 データの2行目	30	20
164頁 表(b) イベント数の変化 介入群のイベント数 データの2行目	18	12
166頁 表1(a) 2つの割合の比 lnと√が欠落	$\frac{a/n}{c/m} e \pm z \sqrt{\frac{1}{a} + \frac{1}{n} + \frac{1}{c} + \frac{1}{m}}$	$\ln\left(\frac{a/n}{c/m}\right) \pm z \sqrt{\frac{1}{a} - \frac{1}{n} + \frac{1}{c} - \frac{1}{m}}$
166頁 表1(a) 2つの比率の比 lnと√が欠落	$\frac{a/b}{c/d} e \pm z \sqrt{\frac{1}{a} + \frac{1}{n} + \frac{1}{c} + \frac{1}{m}}$	$\ln\left(\frac{a/b}{c/d}\right) \pm z \sqrt{\frac{1}{a} + \frac{1}{n} + \frac{1}{c} + \frac{1}{m}}$
166項 表1 (b) 平均値 1.96をtに変更	平均値 $\pm$ 1.96 $\times$ SE	平均値 $\pm$ t $\times$ SE
166項 表1 (b) 平均値の差 1.96をtに変更	平均値の差 $\pm$ 1.96 $\times$ SE	平均値の差 $\pm$ t $\times$ SE
166項 表1 (b) tの定義を追加	t= 自由度(n-1)における信頼係数(例95%)に対応する値 自由度が大きくなると、正規分布の値(95%信頼区間では、t=1.96)とほとんど同じであるため標本数が大きい場合は、t=1.96を使ってもかまわない。	
166項 表1 (b) 2群間の平均値の差 式内の√が欠落	$SE = \sqrt{\frac{(n-1)*S_1^2 + (m-1)*S_2^2}{n+m-2}} \times \left(\frac{1}{n} + \frac{1}{m}\right)$	$SE = \sqrt{\frac{(n-1)*S_1^2 + (m-1)*S_2^2}{n+m-2}} \times \sqrt{\left(\frac{1}{n} + \frac{1}{m}\right)}$
179頁 Number needed to harm 1行目	治療必要数を	治療必要数。
181頁 Precision 2行目	正確さは増す。	精確さは増す。